



# オオミノガ号

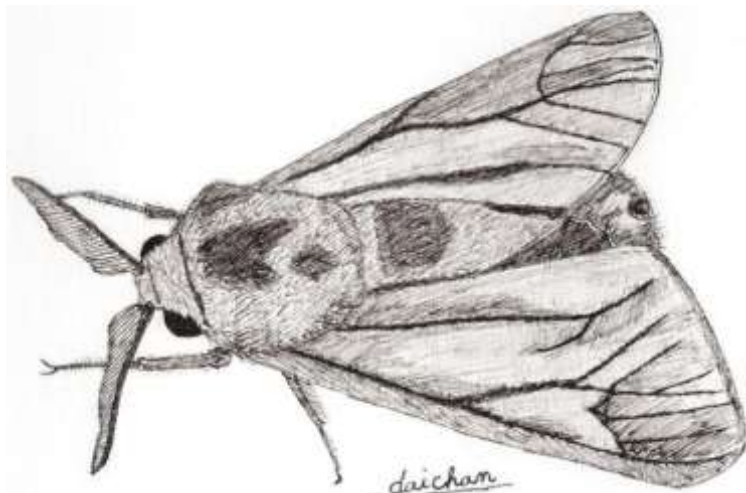
## 《私が子どもだった頃》 代表 山田陽治

子ども時代、最も興奮した遊び（…というより襲撃）は、蛇捕りと蜂の巣取りだった。ヘビは、子どもの頃から一番好きな生きもので、本州にいる日本産ヘビ8種（アオダイショウ、シマヘビ、ジムグリ、ヤマカガシ、ヒバカリ、シロマダラ、タカチホヘビ、ニホンマムシ）は、すでに子ども時代にコンプリートできてました。

大道に一番多かったのは、アオダイショウとヒバカリで、これは今とは変わりありません。ヤマカガシは朝比奈・特に侍従川源流に多く、あの頃はヤマカガシは無毒と言われていたので、無造作にガシガシ捕まえていました(^\_^;

シマヘビは主食となるカエルが多く棲む田んぼがすでになかったので、見たのは一度きりで、それは知らないおじさん二人組がビニール袋に入れたシマヘビを「シマヘビはうめえんだよな」と言いながら見せてもらったものでした。あとの、ヘビはレアなもので、なかなか見ることができませんでした。

今ではほぼみられなくなったニホンマムシは小学生時代に、ボクの住んでいた杉の谷戸（大道二丁目5番地の一部と6番地の一部…小泉又次郎誕生の碑の奥）で2度捕まえました。初めて捕まえたのが小学校3年生の時に、幼蛇とはいえず、初めてマムシを捕まえたのが嬉しくて、みんなに



### オオミノガ（大蓑蛾）

学名：Eumeta variegata

一般的にミノムシと呼ばれる「ミノガ」の仲間、本州（関東・中部地方以西）、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。蛾の仲間だが羽があるのはオスだけで、メスは小枝や枯れ葉等で袋状のミノを作り、イモムシのような姿で一生を過ごす。

90年代に南アジアから入ってきた外来種の寄生虫、「オオミノガヤドリバエ」の影響で全国的に減少していて、絶滅が心配されている地域もある。

深沢大地

自慢したいと思い、翌日学校に持っていきました。

山田少年は、きっと先生に「山田すごいなー」と言って頭をなでてもらえると  
思ったのですが、怒られました…。なんで怒られたかよく理解できず、「先生はへびが嫌いなんだ」と  
思い、「大人とはわかりあえないな」となんとなく思いました。でも実は怒られた記憶はあ  
まりなく、その日学校にただ一人残された記憶があるので、怒られたんだなと漠然と覚えて  
いるのですが、今でも鮮明に覚えているのは、一人残されて帰る時にマムシの入ったプラ  
ケースをのぞくと、中にいたマムシがいなくなっていたことです。その時、ちょっと残念に  
思いながら、「ま、いっか」と言って帰りました。

帰宅すると珍しくおかんがその時間に家にいて、「おまえ、学校に毒蛇持っていったん  
だって!? 先生から電話かかってきたわよ」と言われました。「よっぽど蛇嫌いなんだなー」  
と山田少年は反省をみじんも見せずに言いました

ちなみに、マムシが逃げた教室は、大道小学校の今は校長室になっているところ  
です(当時は3年1組)。

このあと、小学校5年生の時に大きなマムシ(70cm以上)を家の裏で一時間格闘の末に  
捕まえ、伊勢佐木モールにあった「へびや」に持っていこうと思ったのですが、これまた入  
れ物に入れておいて逃げられました。余談ですが、マムシも臭腺から臭いを出すようで、  
つかんでいた手はものすごく臭く、アオダイショウとか他のへびとは違う臭いでした。

それから20年後…青年山田は円海山でマムシに咬まれ入院するという事故を起こして  
しまいました(>\_<) \*このときの様子は、だぼはぜ通信バックナンバーで、「激突(それ  
ゆけ)！やまだくん」という連載記事にあります。

大好きなへびとの思い出話が長くなってしまいました(^^;・・・ハチの話はまたの機会  
に(笑) (つづく)

### 侍従川中流域堆積土砂除去作業の現地確認報告

11/27(月)に侍従川中流域堆積土砂除去作業について、神奈川県横浜川崎治水  
事務所と施工業者との現地確認を行いました(対応:深沢、山田)

侍従川中流域に堆積した土砂を除去する工事が平成29年度1~3月に行われます。  
場所は、二の橋(場合によっては第二山王橋)~長島橋下流です。

<<侍従会からの要望>>

- ・生物の影響の少ない時期に行う
- ・一度に全域をやらない
- ・水草を元通りに復元する
- ・水際50cmは手をつけない

前回工事同様、極力要望を取り入れてくれるそうです。工事直前にもう一度、施工業  
者と現地確認することになりました。

## 9月定例クリーンアップ

【活動報告1】

9月24日(日) 9:00~11:00 晴れ

細川一雄

実施内容：大道東橋～大道橋～朝比奈橋 (土嚢袋4袋分回収)

参加者：長野政治、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、中村健二、村田章夫、石渡博、小坂信房、関場俊子、関場彩莉(年長)、小池碧馬、貞廣宇保(小5)、大石剛司、菊池悠紀(小5)、浦信太郎、小野田幸介、小野田勇介、柴田繭子、柴田真菜(小6)、柴田幸成(小1)、荒川峻輔、大野颯太、五月女陽斗(小3)、金澤喜乃、前川しずか、宇多よしみ、水野公秀、水野秀昭(小4)、山田陽治、深沢大地、金子英司、細川一雄(計32名)

「厚さ寒さも彼岸まで」の言葉通り、彼岸明けの当日の気温は25℃で蒸し暑くも無く、とても過ごし易い日でした。参加された皆さんの顔も気のせいかわきわきしているように見えました(宿題も出し終わったし? 酒も美味しい季節になったし?.....)。

今回も相変わらず上流・下流に分かれて活動開始です。川に下りると数日前の豪雨でゴミが下流に押し流されたのか、ゴミがあまり見当たりませんので橋の両側の草刈りに専念します。橋を渡りながらゴミを捨てる人が多いので多少なりとも綺麗になっていけば、ゴミを捨てなくなるかな?との思いから切れない鎌で草を叩きます。

大道橋下流には5mほども伸び縮みする太い物干しパイプが落ちていました。第二山王橋の傍の家で擁壁から延びた木が邪魔なので切りたいとの要望があり、中村さんとノコギリで何とか切り落としました。その時不覚にも川に落ち、両足がずぶ濡れになってしまいました。気候は良い日でしたが、なんとも色々な事があったクリーンアップでした。

ちとせ園に戻ると、子ども達が捕まえたアオダイショウを首に掛けたり、他の子を脅かしたりと大騒ぎです。本当に子ども達は自然と親しんでいるんだなと思います。子ども達にはお菓子とカルピス、大人には麦の飲み物を飲んでもらい喉を潤おしてもらいました。



地藏前橋から下りて上流と下流に分かれます



一列で青木橋上流の橋をくぐって下流に



地藏前橋上流の清掃・草刈



回収した4袋分のゴミ

# ハゼ釣り大会

【活動報告2】

10月1日(日) 9:00~

林正朗(小3)・叶恵(小5)



## 10月定例クリーンアップ

【活動報告3】

11月5日(日) 9:00~11:00 曇り

細川一雄

実施内容：山王橋～大道橋～朝比奈橋（土嚢袋3袋分、買い物用のキャリー、車のホイールキャップ、三角ポール固定用のゴム板、タイヤの破片（バイク用?）、風で飛ばされた?ハンガー等回収）

参加者：長野政治、西澤博厚、角田繁、村田章夫、細川一雄（計5名）

超大型の台風21号と大型の台風22号の接近により、予定していた10月度のクリーンアップが2週に亘って中止となっていました。そのため10月のクリーンアップは完全に中止になったと勘違いして欠席された方が結構居たようです（リーダーとして情報発信がまずかったと反省しております）。さらに、当日は「秋の森探検」と日程が重なり、子ども達はそちらの行事に参加したため、当日は参加者5名と近年に無い少人数による活動となっていました。

まず、上流から清掃活動を行ない、ちとせ園で土嚢袋を下ろしてから下流の清掃を行う予定にして上流に向かいます。横浜市にお願いしていた上流の草刈りも雨の合間を縫って実施して頂いたおかげでゴミの回収も順調に進みました。青木橋の下流でタイヤの破片（バイク用?）を回収し、さらに大道橋の下で買い物用のキャリー（矢嶋の名札がついていました。風で飛ばされたか故意に捨てたのか?）を回収しました。土嚢袋も大分重たくなって引きずりながら下っていくと、大道橋の下流に車のホイールキャップと三角ポール固定用のゴム板が落ちていました。土嚢袋に何とか入れて清掃を続けますが、重たくて汗が出てくる状態でした。

大道橋～山王橋間は県の治水事務所が草刈りをしてくれました（下流は今後実施予定）ので、ゴミも表面に出てきて目立つようになっていました。さらに草が無くなった事でガラスの破片が見つかるようになり、多数回収できました。ちとせ園まで下ってくると西澤さんが痛む腰を庇いながら周辺のゴミを拾っていました。人数も少なく今回は大きなゴミの回収で体力も消耗してしまったので今日はこれで作業を終了しました。



地蔵前橋下の清掃作業



タイヤの破片と買い物用キャリー



大道橋下流のホイールと三角ポール固定用ゴム板



回収した3袋分のゴミ他

# 秋の恵みを探そう！ ～秋の森探検～

11月5日（日） 9：00～

【活動報告4】

藤間康司

11/5（日）に行われた「秋の恵みを探そう！～秋の森探検」、娘と娘の友達を3人連れて参加させていただきました。集合場所の大道小学校に着いた頃は少し寒かったのですが、段々と暖かくなり、天気にも恵まれました。東北で子ども時代を過ごした私ですが、森でのキノコ狩りなんて初体験。どんなキノコが見つかるんだろう？と、一緒に連れて行った子どもたちよりもワクワクしながら朝比奈市民の森に入っていました。程なくキノコさがしが始まり、案内人の飯村さんに色々教えてもらいながら、子どもたちがキノコを見つけ始めました。ムラサキシメジ、ウラベニホテイシメジ等々。見つかるとしても小さいキノコかなと想像していたので、その大きさにびっくり。そのうえ巨大なスズメバチの巣も見つけて、キノコ探しはワクワク・ドキドキ・びっくりの連続でした。

午後は採ったキノコの解説を聞いてから調理。一緒に参加した娘の友達が一所懸命料理を手伝ってくれて、キノコの Pasta やムカゴのバター炒めを作ってくれました。ムラキシメジはバターと相性よく、素直な味の Pasta に仕上がりましたが、ウラベニホテイシメジは少し苦みがあって、少し大人の味。ビールに合いそう。

私が連れていった子どもたち、ムカゴは食べたのですが、キノコの Pasta は食べず。キノコを探すのと料理は面白かったようだけど。あとで食べなかつた理由を聞いたら、元々キノコは苦手というのと、どうやら自然に生えているものを口にするのに抵抗があったとのこと。他の参加者の子たちは美味しそうに食べていたんですが・・・

スーパーやコンビニに行けば出来合いの食べ物が手軽に買える世の中ですから、無理からぬことかもしれません。だからこそ今回の参加だったので少し残念ですが、秋の恵み、森の恵み、食べたキノコの美味しさは、子どもたちがもう少し大人になるまでお預けということで。

最後は侍従川で鬼ごっこを始めた子どもたち。楽しそうに駆けまわり、めいっぱい楽しみました。



ウラベニホテイシメジ発見！



ムラサキシメジ



キノコの説明



調理中



イラスト 鎌田 花南

## 11月定例クリーンアップ

【活動報告5】

11月26日(日) 9:00~11:00 晴れ 風強し 細川一雄

実施内容：大道東橋～大道橋～朝比奈橋 (土嚢袋9袋分回収) 家庭ごみ、布団 (重くて回収不可)

参加者：長橋輝明、西澤博厚、角田繁、石塚正夫、村田章夫、小坂信房、関場俊子、外川忠志、山田陽治、飯村優介、荒川峻輔、柏倉正和、柏倉智春、柏倉陽向(小5)、柏倉陽斗(小2)、小池碧馬、貞廣宇保(小5)、柴田繭子、柴田真菜(小6)、柴田幸成(小1)、今井康祥、今井翔太、國師裕紀子、國師鷹晶(小5)、國師泰行(小3)、伊集院ゆかり、伊集院寛太(小4)、伊集院奨太、深沢大地、金子英司、大石剛司、細川一雄(計32名)

立冬も過ぎて各地から雪の便りが届き、関東地方でも寒い日が続いていましたが、クリーンアップ当日は小春日和の温かい一日でした。しかし、風が強いため、ちとせ園でカセットコンロを使っておでんを煮込む予定を変更し、自宅で煮込むことにしました。さらに前日の夜、誰かがちとせ園で酒を飲んで騒いでいたようで酒瓶の割れた欠片やつまみのビニール袋や煙草の吸殻等が散乱していて、さらに嘔吐の跡が二箇所にありました。そのため、まずはちとせ園を清掃してから作業を開始しました。

今月上流域に続き、下流域でも神奈川県横浜・川崎治水事務所が草刈りを実施しましたのでゴミも見つけやすく、また草に隠れていたガラスなどのゴミを多数見つけることができました。

(また逆に草が無くなったためにゴミが草に引っかからずに下流域に流れていってしまい回収できなくなるという点もあります)。清掃作業も順調に進みましたが、県営住宅裏には家庭ごみが散乱したようなゴミが、泥牛橋下流には布団が落ちていました。布団は重たいため回収できませんでしたが、なんととも言えぬ想いです。

清掃作業終了後、煮込んでおいたおでんを家から持って来て、皆さんに食べていただきました。予算が限られていますので、高級な食材は用意できませんでしたが、前日からコトコト煮込んでおきましたので出汁は十分にしみていると思います。大きな鍋に作りましたがおかげさまで完売でした。大人たちはいつもの通り、麦の飲み物と長橋さんからの差入れの米の水で喉を潤おしていただきました。



地藏前橋から下りて上流と下流に分かれます



回収した9袋分のゴミ



泥牛橋下流に廃棄された布団



## 虫のきょういく座談会 ～バッタのアシが歯茎に刺さると?～



2017年9月の話である。あやしい3人組が金沢文庫のビッグボーイに入店した。侍従会代表の山田氏、学生部新役員平川氏、そして筆者佐野である。3人は夏を終えて少し気が抜けた様子で談笑を始めた。

佐野「今度、ウチの博物館で『三浦半島の鳴く虫』という直翅目に着目した特別展示をやるんですよ。」

山田「あれ? サノシン (佐野) って直翅目好きだっけ?」

佐野「直翅目は正直あまり興味ないですね…笑 まあクツワムシは好きですが。」

平川「私も直翅目は苦手かも…笑」

「直翅目」ってなんじゃい?? いきなりの昆虫用語の連発に読む気を無くす読者もいるかもしれないので説明させていただきたい。「直翅目 (ちよくしもく)」とは、バッタ・キリギリス・コオロギ等を主体とした昆虫のグループである。

山田「俺も直翅目はそんなに得意じゃないけど、ヤブキリはカッコイイと思うな! 草食かと思いきや他の昆虫もバリバリ食っちゃう肉食感がカッコイイ!」

佐野「ええ? そうですか? ヤブキリは品がないですよ!」

山田「サノシンは品のない虫嫌いだよね! ミケちゃん (平川) はどう?」

平川「私は、そもそも直翅目が好きじゃないですね! 笑」

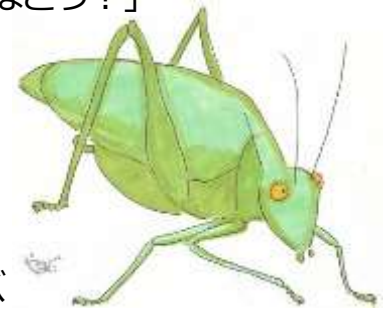
山田「なにいつ! ?」

平川「特にコオロギなんか爬虫類のエサとしか思ってません!」

佐野「コオロギも品がないよねえ~笑」

平川「でも強いて言うならコオロギとかキリギリス系よりは、バッタ系の方がマシです。ライダーっぽいというか、気持ち悪くはないですね! 笑」

山田「おれはコオロギ系・キリギリス系の方が好きだけどなあ~」



キリギリス亜目  
サトクダマキモドキ  
(だぼはぜ通信2009年第3号より)

直翅目は、大きく別けてバッタ亜目 (バッタ系) とキリギリス亜目 (キリギリス・コオロギ系) に分けられるのだ。この場での会話では、品が良いのがバッタ亜目、品が無いのがキリギリス亜目という流れとなっている。何とも主観的で勝手な会話である。

平川「茨城の実家にいた時、犬の散歩で利根川の河川敷を歩くのが日課だったんですけど、トノサマバッタがよくいましたよ。一度飛ぶとどこまでも飛んで行くんですよ! 笑 トノサマバッタはカッコイイですよ。」



山田「トノサマバッタね！ あれはちょっとカッコイイの分かるかも！」

佐野「モロ仮面ライダーっぽいでもんね。」

山田「それもあるけど、あの背中ラインがなんかバイクのタンクっぽいじゃん！ じゃあミケちゃんイナゴはどう??」

平川「イナゴは好きですよ！ 実家の食卓にも日常的に出てましたし。」

佐野「日常的に?? てか直翅目嫌いなのに食べるんだ?笑 俺も食べたことはあるけど、もう過去の文化なのかと思ってた！」

平川「そんなことないですよ！笑 スーパーにも売ってましたよ！」

山田「俺もイナゴは大好きだったなあ～ 親にイナゴを弁当に入れてくれって頼んでたし！あの固い足が歯茎に刺さるんだよね～」

平川「それ分かります！笑」

山田「足が1週間くらいずっと歯に刺さってて、ある日、算数の時間に取れた時のことは今でも忘れられないなあ～」

佐野「なんすかそのエピソード…」

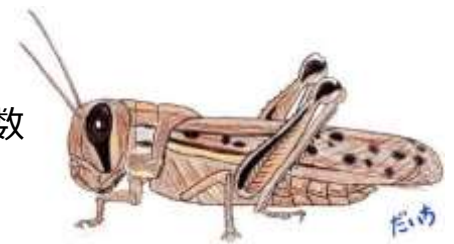
平川「それでも一時期、高校生くらいの頃かなあ、イナゴが食べられなくなった時期がありました。」

佐野「え? なんで?」

平川「年頃だったのか。なんか気持ち悪く感じて、何で私こんな虫食べてるんだろうって思っちゃって…笑 でも今はまた食べられるようになりましたよ！美味しいですよね☆」

佐野「なんだ好きなんじゃん!!笑」

直翅目嫌いの平川氏は、結局食すほどバッタが好きだったということでこの座談会はまとまった。バッタ・コオロギ・キリギリス等の昆虫が嫌いという人はしばしばいると思う。しかし、平川氏を見習い、一度食卓に並べてみてはいかがだろうか。1週間くらい歯茎に刺さりっぱなしだった足が上手く抜けた日には、きっと忘れられない思い出になるだろう。



バッタ亜目  
ツチイナゴ  
(だぼはぜ通信  
第24号より)

### トピックス&生き物発見記録

9/25 (月) あけぼの保育園年中&年長組が侍従川で魚捕り体験…細川、山田が対応

10/21 (土) 海の公園で開催された第43回金沢まつり いきいきフェスタにて侍従川水族館展示…今井康祥・幸子・翔太・はるか、長崎光則、深沢大地、高橋一太、金澤喜乃、大野颯太が対応。

10/30 (月) NHK BSプレミアム ニッポンの里山 故郷の絶景に出会う旅 「トンボの楽園 都会のため池 神奈川県・横浜市」…大道小学校とんぼ池周辺 ロケ地…佐野が対応

11/16 (木) 高舟台にて植林地帯の落ち葉の中にいたアマガエルを発見 (遠藤)



# ピカピカタンポポだより⑦

横浜市立大道小学校 鷺谷康子

## 大道小学校の環境ニュース！

**その1** 今年も卒業する6年生のために、全校で菜の花を育てています！種まき集会を開きました。(10月26日)

6年生のために、卒業式の会場に置く菜の花をそだてていますが、今年は4年生が中心になってすすめています。

種まき、水やりなどの世話も全校で分担して行っています。今は芽が出て本葉が4～5枚出ています。

**その2** NHKBSプレミアムの「ニッポンの里山 ふるさとの絶景に出会う旅」の番組に、「トンボの楽園 都会のため池 横浜市」として大道小学校のトンボ池が「校庭里山」としてほかの2校とともに特集されました。(10月30日 朝7:00～7:10放送)

水車のある池の様子が映り、ここはどこ？と思ったところで、水草や子どもたちが遊ぶ風景が上からの俯瞰された映像で、大都市横浜の住宅地の中の一角の学校の中にある、ため池であることが紹介されていました。地域がかつての里山だった時の様子、原風景を残したいと、1992年に地域の保護者や教員や地域の方々が作ったこと、今年に1回、水を抜いてエコアップをして環境を守っていることなどが紹介されました。生き物もたくさん映り、一度横浜から姿を消しかけていたハグロトンボは、侍従川から飛んできていることも紹介され、地域の方が大切にしてきた川と池がつながって生き物が増えていることなどが紹介されていました。ヤゴが羽化する様子も時間を縮めて映されていました。カワセミやサギが来ることは知っていたのですが、フウロウもきているとはびっくりでした。

10分間の放送なのですが、映像は素晴らしく、きれいで、トンボ池や地域の様子、トンボ池の歴史や目的まできちんとまとめられていたのはさすがです。学校にNHKエンタープライズの方が10回近く通われて、ドローンなども駆使して映像を撮ったり、朝早く、夜遅くの映像を撮ったりしていらしたようです。さすがプロのお仕事！長く取材されたことが、こんな風にまとめられるのだなと驚きました。

**その3** トンボ池の初氷は、今年は12月14日でした。

1年生が、朝おはようのあいさつより早く「先生！トンボ池氷がはってる！さわったから手がつめたい！」と報告してくれました。寒くなったわけですね。みなさま、風邪などひかれませんように。



## 朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

新たな発見と毒見、仮の名はウスキホウキタケ。

今年の10月は雨が多く、この地域でキノコの量、種類共に多かった。源流の尾根を越えた鎌倉側のコナラ林でうすい黄色のキホウキタケ近似のキノコを発見。リングを描き見事なシロ。傷つけて変色せず、キホウキタケではない。キホウキタケは軽い中毒をおこすものがあるが、黄色型のホウキタケでおいしく食べられるものもある。試してみることにした。



仮称ウスキホウキタケ

ホイル焼きにして昼と夜と続けて試食。おいしい。かすかにほろ苦いも、ウラベニホテイシメジより弱い苦さで、ホウキタケの良さがある。異常も腹がゆるくなることもなかった。翌日家族皆でおいしく料理して、新たな美味いキノコとなった。

イベントでは安全種のみ試食しています。

## 琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～ ～ サキシマカナヘビ ～



学名：*Takydromus dorsalis* 体長：26～30mm

分布：奄美群島、沖縄諸島

尾が長く細身なので、華奢な印象を受けるが日本のカナヘビ科では最大級の種類。低山地の森林に多く、海に近い2次林的な環境でも見ることができる。

沖縄諸島・奄美諸島のアオカナヘビ、宮古島のミヤコカナヘビとは別種。

監修：熊井健（沖縄在住）

## 北の国から ～頭が赤い、おめでたい野鳥～ 瀧本宏昭

苫小牧は、常にマイナスの気温の日が多くなり、すっかり冬。もうすぐ新しい年になりますが、年賀状を書いている方もいるのではよいでしょうか。

そんな年賀状にめでたい生き物として描かれ、日本の昔話の絵本にもよく登場する鳥が北海道には暮らしています。名前はタンチョウ。漢字で「丹頂」。丹は赤いことを、頂はてっぺんを意味します。

インターネットで「鶴の恩返し」と画像検索すると、この鳥が描かれていることが多いようです。このように、その姿を思い浮かべやすい鳥ですが、実はとても少ない存在です。

現在、世界では3500羽ほどしかおらず、ロシア、中国、韓国、日本でしか見られません。日本国内では1800羽ほどで、そのほとんどが北海道東部の釧路や根室周辺の限られた地域のみです。昔から今のように数が少なかった訳ではないようで、日本に限って言えば江戸時代のころには、北海道全域や江戸（東京）周辺でも見られていたようです。

そういえば、横兵には鶴見川がありましたね。そんな存在が明治以降急激に数を減らし、1952年には釧路の33羽のみにまで減ってしまいました。理由としては、子育てをするために必要な湿地の農地化、明治維新による狩猟制限の解除があるようです。

一時、絶滅寸前にまでなったタンチョウですが、特別天然記念物への指定や釧路住民による給餌などの保護活動によって、その数を回復してきました。そして、現在子育てをする分布が広がってきており、西の端が北海道むかわ町にまで来ていて、1つがいがかここ数年子育てをしています。この場所は、ウトナイ湖がある勇払原野の南隣。ウトナイ湖でも時々タンチョウの姿が見られ、子育てをいつ開始するか、専門家の間では注目されています。

私自身、宝探しするようにワクワクしながら巡回しています。来たらきたで色々な不安要素があるのですが。それは次回に。



12月の原野



3月まで雪（氷）は残り続ける



# 侍従川定例調査報告 学生部

2017年11月26日(日) 9:00~11:00

【調査範囲】 泥牛橋～二の橋

【参加者】 小学生9、中学生1、高校生3、大学生1、大人16

【確認した生物】 カワニナ、タイワンシジミ、ハグロトンボ幼虫、ミレンヤンマ幼虫、コシボソヤンマ幼虫、ダビドサナエ幼虫、ヤマサナエ幼虫、ミゾレヌマエビ、テナガエビ、ボラ、スミウキゴリ、チチブ、コサギ、アオサギ、ゴイサギ

【備考】 中下流域で、スミウキゴリの卵塊を3つ、石の裏にあるのを確認しました。

9/24(日)に侍従川初発見のタイワンシジミを、中流域でまた確認しました。



スミウキゴリの卵塊



タイワンシジミ



スミウキゴリ

## 侍従川水辺愛護会が横浜市から表彰されました。

横浜市から、永年表彰(10年表彰)の表彰状と記念品を受領いたしました。これは本来一昨年の平成27年11月25日開催の「水辺愛護会交流会・表彰式」にてもらう予定でしたが、当日欠席してしまったためもらえず、私も市の担当者も失念してしまい、そのまま保管されていたようです。今回、担当者が変わり表彰状が残されていた事が分かり、担当者から連絡があり、改めて受領した次第です。

横浜市の水辺愛護会制度は平成9年にスタートし、今年で丁度20年になります。現在横浜市内では約100の愛護会が清掃・除草活動をしており、年に一度交流会が開催されています。

侍従川水辺愛護会は平成10年から活動を開始しています。また、横浜市が発行している「水辺愛護会通信」の栄えある創刊号には侍従川水辺愛護会が紹介されています。

なお、副賞で頂いた「花と緑のギフト券」1万円分は、侍従川の清掃活動に皆勤された方々と特に貢献された方に差上げたいと思いますので、何卒ご了承下さい。



平成29年9月20日 侍従川水辺愛護会 会長 細川一雄

# 事務局だより

## ◆1月～3月の活動予定◆

☆定例クリーンアップ1/28(日)、2/25(日)、3/25(日)

9時～12時ちとせ園集合

※雨天延期…翌週日曜

持ち物：川に入れる格好、タオル、軍手(必要な人)、網(使いたい人…貸出あり)、着替え(心配な人)

※川の上からの参加でも構いません



☆1/1(月・祝)初日の出を見よう&バードウォッチングの会!

場所：野島山展望台及び野島公園

集合：6時 野島山展望台の上 解散：12時頃 野島公園

温かい飲み物、双眼鏡、図鑑、カメラ等があると良いです。

※小学生以下は保護者同伴のもと参加して下さい。

※防寒対策をしっかりとってきて下さい。

※バードウォッチングのみの参加も可能です。8時30分に野島海岸前浜でお願いします。

[問い合わせ] 深沢 080-6714-2000 daichan.orca@gmail.com

☆1/27(土) ネイチャークラフト教室～つるでかごづくり～ 9時大道小集合

午前…つる採り 午後…大道コミュニティ研修室Aにてかご作り 参加無料 ※雨天中止

☆3/25(日) 第32回よこはまの水辺と緑を考える子ども会議

会場：本郷台アースプラザ 大会議室

実行委員会：1/20(土) 会場未定、2/17(土) 会場未定、3/18(日)予備

## ■学生部の活動

大道溪谷の保全作業：1月、2月定例クリーンアップ後の午後

水鳥調査：1/13(土)、2/3(土)、2/24(土)、3/17(土)

2月下旬～3月上旬 バチめけ観察会

※詳細はメーリングリストでお知らせします。

《編集後記》 気がつけばもう年の瀬。1年経つのは早いんですね。だまはせ通信は今回で40号となりました。年に4回発行なので、ちょうど10年続いたこととなります。皆様にご感謝しつつ来年以降も編集を続けたいと思っています。(MK)

ふるさと侍従川に親しむ会

事務局：金澤 由香

TEL：090-4072-8485

e-mail：jijyukai@gmail.com